

# 令和3年度第2回大垣市多文化共生推進会議会議録

令和3年11月12日(金)午後2時から、令和3年度第2回大垣市多文化共生推進会議を、市役所8階・大会議室において開催した。

その内容は、次のとおりである。

## 1 議 題

- (1) 大垣市第二次多文化共生推進指針(素案)について
- (2) その他

## 2 参加者

### (1) 出席委員(10人)

高橋 利行	学識経験を有する者
白井 千里	多文化共生又は国際交流活動に関係する者
社本 久夫	多文化共生又は国際交流活動に関係する者
岡本 幸	多文化共生又は国際交流活動に関係する者
神谷 利行	地域活動に関係する者
堂前 伸行	地域活動に関係する者
奥田 裕一	地域活動に関係する者
尾崎 和美	市民公募による者
山崎 幸輝	市民公募による者
李 陽	市民公募による者

### (2) 欠席委員(なし)

### (3) 事務局(4人)

杉田 昭子	大垣市市民活動部長
中川 智臣	大垣市まちづくり推進課長
桐山 知弘	〃 多文化共生推進グループ主幹
問山 直子	〃 主査

## 3 傍聴者

1人

## 4 会議の概要

### (1) 主な内容

発言者	内 容
高橋委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>指針については、市民アンケートの結果を踏まえ、今までの踏襲ではなく、委員の皆さまの意見を伺いながら、現在に即した「素案」になっているかどうか審議していきたい。</li> <li>議題の1「大垣市第二次多文化共生推進指針（素案）について」事務局に説明をお願いします。</li> </ul>
桐山主幹	※ 市民アンケート結果の報告
尾崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会の中で差別されたと感じる回答が5年前より増えたということですが、新型コロナによる差別が原因で増えたのでしょうか。東濃で外国人クラスターが発生したなどのニュースが報じられたことで、外国人はみんな同じような目で見られたのではありませんか。</li> </ul>
桐山主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>その理由も十分考えられます。また、アメリカなどでは「ブラック・ライブス・マター」運動に代表されるような有色人種差別が報じられており、世界的に差別が拡がっている世相的な要因も感じています。</li> </ul>
神谷委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民アンケートにおいて、「ゴミの出し方・リサイクル方法」の情報が必要という回答が多かったが、本当に関心があるのか疑問である。アンケートの回答は国籍別に集計しているのか。</li> </ul>
桐山主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>国籍別の集計はしていません。ゴミに関しては、例えばベトナム人は技能実習生が多く、会社が借りたアパートに住んでいる人が多いようです。自治会のゴミ捨て場を利用するのは、ブラジル人か中国人が多いと考えています。</li> </ul>
神谷委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒崎地区では、ブラジル人より中国人の方が、ゴミ出しのマナーが悪いと感じている。</li> </ul>
堂前委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民アンケートを送った相手は、5年前のアンケートに回答した方と同じなのですか。</li> </ul>
桐山主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>無作為抽出なので、5年前と同じ人が当たった可能性はありますが、概ね違う人だと考えています。</li> </ul>
山崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人の悩みや心配事を聞く設問で、自分の老後、近親者の介護が心配だと回答した外国人が11%います。介護サービスの情報提供</li> </ul>

発言者	内 容
	<p>や、介護施設に外国人が来てもいいような体制づくりを、今後考えていく必要があると思うので、その点も指針に入れてはどうか。</p>
高橋委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人の介護については、今回の改定というよりも、次回以降の改定時に考える課題と感じています。</li> </ul>
社本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢外国人の介護は今後問題になると予想していますが、外国人の子どもの教育も、子どもが日本で住み続けるならとても大切なことです。</li> <li>国際交流協会の日本語教室でも、生活に役立つ日本語の勉強をしていますが、ゴミ出しのルールは住んでいる地域によって違うので、その地域のやり方を覚える必要があります。</li> </ul>
高橋委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>このアンケート結果を、指針に反映していければと思います。</li> <li>続いて、新しい指針の基本理念や基本目標について事務局に説明をお願いします。</li> </ul>
桐山主幹	<p>※ 素案の基本理念・基本目標の説明</p>
白井副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>わかりやすい内容になっていると思います。多文化共生の5つの課題から基本目標を掲げ、どれも必要なことだと感じています。</li> <li>今回新たに5番目の基本目標となった「外国人市民の活躍促進」ですが、外国人だけでなく日本人と一緒にやっていく必要があると思います。私の「岐阜県世界青年友の会」でもずっと取り組んでいます。そのために大事なことは参加して「楽しいこと」だと思います。</li> <li>3年ほど前の大垣国際交流協会30周年記念イベントで、外国人の母国の料理や、踊りなど披露してもらったことがあり、たくさんの参加者が楽しむことができました。食文化などは日本人にもわかりやすい。大垣国際交流協会にはそのような役割も期待されていると思いますが、その辺りはいかがでしょうか。</li> </ul>
社本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>協会においても外国人が活躍できるイベントを開催しています。2月に開催する「地域日本語教育シンポジウム」では、日本語を勉強している外国人市民が登壇し、日本語で意見を話してもらっています。現在は新型コロナのため、交流イベントの開催が難しくなっていますが、今後、新型コロナが終息した際には、協会としても積</li> </ul>

発言者	内 容
	<p>極的に外国人市民の活躍を応援したいと考えています。</p>
高橋委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活躍を期待されている外国人側の視点から、岡本委員にお話を伺いたい。</li> </ul>
岡本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私は、放課後に外国人児童生徒の学習支援をしています。保護者からはよく交流イベントなどに参加したいが、1人ではなかなか参加しにくいといった意見を聞きます。そのような時に、背中を押してくれる存在がいると外国人も参加しやすいと思います。</li> </ul>
高橋委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ では、同じく外国人市民の目線から、李委員からご意見を伺いたい。</li> </ul>
李委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私は学校通訳をしている仕事上、外国人児童生徒の学習支援が気になっています。個人的には、外国人児童生徒の日本語学習にもっと積極的にICTを活用していく必要があると思っています。SNSの情報やインターネットを活用した勉強方法など、いいアイデアが見つかると思います。</li> </ul>
高橋委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総務省の「地域における多文化共生推進プラン」においても、日本語学習に「ICTを活用」と明記されています。</li> <li>・ ICTを活用した日本語学習について、大垣国際交流協会さんの取り組みはいかがでしょうか。</li> </ul>
社本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協会では、新型コロナ禍に対応するため、新たにZoomを使った「日本語おしゃべりルーム」を開催しています。今後もICTの活用については拡げていきたいと考えていますが、一方で、リアルに指導者と学習者が顔を合わせる対面学習も重要と考えています。</li> </ul>
臼井副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社本委員が言われたとおり、ICTの活用は絶対だと思います。まだ実際に集まることは難しいですから、情報機器に頼らざるを得ないと思いますし、今後も積極的に取り入れていくべきだと思います。私たちの活動の中でも、Zoomでミーティングをやっています。</li> <li>・ また、教育において、大切なのはネットワークづくりだと思います。行政機関だけやろうとすると、なかなか大変だと思います。きらきら教室なども、ネットワークの情報に乗せることで、逆に新しい提案ができることもあるかもしれません。</li> <li>・ 教育の分野でもICTなどを活用してできることはたくさんある</li> </ul>

発言者	内 容
	<p>と思います。国際理解教育については、各学校が海外に1校は交流校を持ち、Z o o m等で相互交流することが一番ではないかと思っています。</p>
奥 田 委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民アンケートの25ページに、「外国人保護者が学校に望むこと」の回答があり、「外国人生徒への理解」や「民族や文化の異なる国に関する学習」が多かったとのこと。</li> <li>・ 今後、英語学習の一環として、I C Tを活用した国際交流授業をやりたいと思っており、その中で、異なる民族や文化への理解を深める学習ができればと考えています。</li> </ul>
神 谷 委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域でブラジル人住民と交流を図ろうとする場合、一緒に食事を囲んでコミュニケーションするには地区センターしかない。しかし、この2年ほど新型コロナのために地区センターが使用できず、外国人住民と交流できる場所がありません。</li> </ul>
高 橋 委 員 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この指針は5年間の計画ですから、あまり、新型コロナに引っ張られた内容にするのもいかがかと、その点も考慮していただけたらと思います。今の状況を基準にすると、内容が全部後ろ向きになってしまいます。</li> </ul>
中 川 課 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナに関して、県の会議等にも出席していますが、多言語による情報提供などは、これまでの蓄積もあります。県からは「大垣市はクラスターを出さないように活動してもらっている」と、お褒めをいただいております。東濃・中濃ではまだまだ外国人の感染者も増えています。</li> <li>・ 本市でも、第5波ではそれまでの10倍以上の外国人市民が感染し問題になりましたけど、それについても、皆さま方それぞれのネットワークを活用して、多言語で情報提供をしてもらいました。</li> <li>・ 毎週金曜には中国語の通訳に来てもらっていて、中国語のSNS「微信」で情報発信するなど、いろいろな取り組みを進めています。今までの事業の蓄積を継続することで、今後のアフターコロナにも対応できると考えています。</li> <li>・ 新しい指針について、コロナ対応策ばかりではネガティブな構想になってしまいます。もう少し明るい、アフターコロナを見込んだ指針にしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。</li> </ul>

発言者	内 容
堂 前 委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市の施策としては難しいことなのかもしれませんが、指針を作成するにあたって、外国人から意見はもらわないのですか？</li> </ul>
桐 山 主 幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人市民にアンケートを実施し、その課題とニーズを整理して指針を作っています。</li> </ul>
高 橋 委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリックコメントと同じことですね。パブリックコメントは一方的に投げるだけなのですか。それとも外国人にお願いしたりするのですか。</li> </ul>
中 川 課 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリックコメントの募集は日本語のみで、ポルトガル語・中国語・英語の翻訳したものではありませんので、外国籍の方でご意見をいただける人がいるかは課題です。</li> </ul>
堂 前 委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大垣市はブラジル人が多いですが、正規雇用就職しても、給料が安いと言って、すぐに派遣労働に転職してしまう、そういった傾向が強いです。正規雇用だけが正義というつもりはありませんが、将来の介護などを考えた時には、正規雇用と非正規雇用では、将来もらえるお金が全然違うことをわかってもらいたい。外国人労働者の方に、目先のお金より子どもたちの将来や、親の介護等の将来を見据えた人生設計・ライフプランをしていただけるといいのかなと思います。そういった部分も今後の施策の中に、市として何か検討してもらえるとありがたいと思います。</li> </ul>
中 川 課 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なかなか厳しいお話です。市単位で出来ることと出来ないことがある中で、外国人を雇用している企業等に意見を広く聴いて事業を進めていきたいという意味で、新たに 5 番目の基本目標を設けましたので、その中で対応を考えたいです。今、ブラジル人の話が出ましたが、ベトナム人等の技能実習生も市内企業にどんどん入っていきますので、企業としてどうしていくのかという点も考えながら、その延長として非正規で働いている方の将来設計についても支援できるといいかと思っています。この分野は現状では一番できていない課題の部分ですので、今後、ハローワークや労働局と連携して、中長期的に考えていかなければいけない問題だと思います。</li> </ul>
桐 山 主 幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリア教育については、岐阜県も力を入れていますので、「外国人活躍の推進」という点で、県と連携して取り組んでいければと思</li> </ul>

発言者	内 容
	います。
社 本 委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、外国人労働者が技能実習から特定技能に切り替わってきます。すると流動性が増してくると思いますので、その辺りの国の政策を示してもらわないと、地方公共団体は大変になってくると思います。</li> </ul>
堂 前 委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定技能は日本に永住できるわけではなく、在留期間は 5 年が上限になります。</li> </ul>
社 本 委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定技能制度は 2019 年（平成 31 年）4 月に始まり、特定技能 1 号は、まだ 5 年を経過していないため人数は少ない現状ですが、その後の特定技能 2 号になると、更新による在留に制限がなく、家族を呼び寄せることができます。今後拡大が見込まれ、対応する政策というのは、地方公共団体規模では対応が難しい大きな流れとして出てくるのではないかと。その大きな流れの中で、外国人の活躍というのも捉えていかなければならないと考えています。</li> </ul>
高 橋 委 員 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日は、川瀬委員さんが欠席ですが、前回の会議で日本語教育分野のご意見もありましたので、ぜひお考えを聞いていただければと思います。</li> </ul>
桐 山 主 幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご欠席ということで、事前に説明させていただきました。素案にご意見があれば出していただくことにしましたが、まだ、いただいておりません。</li> </ul>
白井副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大垣はブラジル人の方が多く、国によって違うとは思いますが、リーダーシップを持っていらっしゃる方の把握はしていますか？</li> </ul>
桐 山 主 幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岐阜県が、「外国人県民コミュニティネットワーク事業」ということで、外国人リーダーを集めてネットワーク化しようとしており、大垣市もコミュニティリーダーを探して連携をとれるようにしようとしています。この事業は 5 番目の基本目標の中で、外国人コミュニティとの連携として進めていくつもりです。</li> </ul>
白井副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こういう会議にも、外国人の現場の声を話せるコミュニティリーダーが委員として入らなければいけないと思っています。何年間かで母国に帰られる方もおられますけど、ここに定住される方もたくさんいらっしゃいますので、そうであれば、コミュニティリー</li> </ul>

発言者	内 容
	<p>ダーという役割ができる人たちのネットワークキングが、絶対的に必要だと思います。言葉の問題もありますが、そのリーダーを通じて、メンバーに早く届くと思いますし、信頼性があるリーダーの言うことならみんな聞こうということになるのではないのでしょうか。外国人コミュニティのネットワーク化に、一つの大きなキーがあると思います。市としてはどのくらいコミュニティを把握できているのでしょうか。</p>
桐山主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>この会議には、岡本委員が外国人コミュニティのリーダーとして参加してもらっています。</li> </ul>
中川課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>岐阜県も、新型コロナへの対応として、外国人コミュニティの把握に本腰を上げて取り組んでいかれると思います。本市としても、これまでの蓄積を生かして外国人リーダーを把握し、そのネットワークを通じて新型コロナ等の情報提供に協力してもらっています。しかし、それぞれの国民性があり、同じように情報を提供しても国によっては難しい部分があるので、それを今後どうやって整理していくのが課題だと思います。県の動向も見ながら、それぞれの国に合わせた個別の情報提供の仕方をしていく必要があると思っています。そして、次の5年間でネットワークの構築をしていかなければと思っています。皆さま方のご意見を聞きながら進めていきたいです。</li> </ul>
高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間も参りましたので、ひとまず指針の素案についてのご意見を閉じさせていただいて、「その他」に移ります。尾崎委員がご用意いただいた新聞記事についてお願いします。</li> </ul>
尾崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回の会議でもお話させていただいた、地域による外国人児童生徒の教育格差について、新聞に載っていましたが、ご覧いただければと思います。</li> </ul>
高橋委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>これは、今の多文化共生の問題点をご指摘いただいたということで、ありがとうございます。皆さんも見ておいていただければと思います。</li> <li>それでは、これをもって第2回の会議を閉じさせていただきます。</li> </ul>
中川課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>高橋委員長様ありがとうございました。今後は、今いただきましたご意見、この後議会に報告して、そこからいただくご意見、また12</li> </ul>

発言者	内 容
	月末からのパブリックコメント、これらの意見を反映したものを作ります。そして、2月上旬にまた皆さまにお集まりいただきまして、最終版を見ていただいてご意見いただきたいと思っていますので、その時はまたご協力をお願いします。

終了時刻：15：30